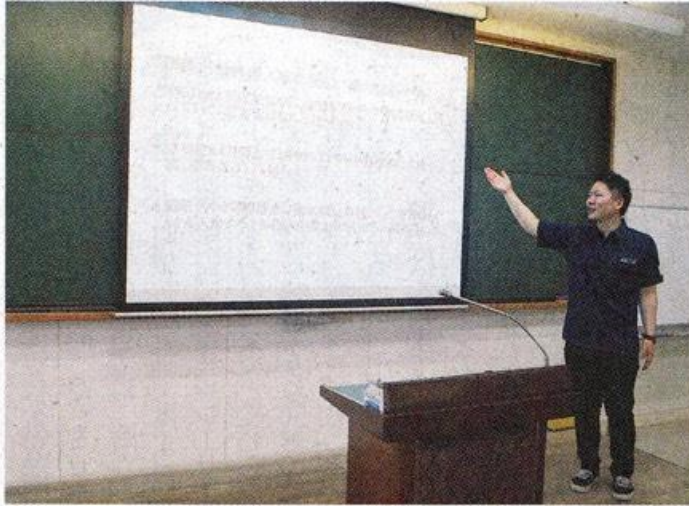


釧公大など道内学生組織

未来担う中高生と議論

人材育成へ「学びの場」事業



「SCANバトル」の模擬プレゼンを行う三浦代表

釧路公立大など道内の学生たちによる北海道学生研究会SCAN(スキャン、三浦明寛代表)は、地域を担う人材育成と地域経済の活性化につなげようと、10月をめどに「地方創生の学びの場」と題した事業を行う。中学生、高校生にも参加を募り、地域の課題をテーマに研究し、意見を交わす。この地域を深く知ることによって将来も住み続ける意識を高めてもらおうというものだ。(嶋守善一)

これからの釧路を支える若者たちをしっかりと育成するのがねらい。地域の課題に正面から向き合い、その課題を解決できるような人材を目指す。「学びの場」に続き、「発展・展開の場」という大学生だけを対象とした事業も予定されている。

「学びの場」の目玉となるのは、SCANバトルと呼ばれる勉強会。3日間かけて実施する。釧路管内の中学生、高校生と大学生で混合6人編成のチームをつくり、まず研究テーマを設定。その後、実地見学や統計データなどを用いて解決

策を導く。それをプレゼンテーションすることでチームの優劣を競う。対象は釧路管内の中学生と高校生。高校生には、この勉強会に参加してもらうことで思考力や分析力の向上につながる。それが期待される。また、それだけでなく、地域に学び、地域をよく知ること

でふるさとに愛着を持ち、住み続けてもらうという「地域につなぎとめる」効果も狙いのひとつだ。釧路市は同事業に「輝くまちづくり交付金」の30万円を交付。市教委もサポートする。

SCANは21日に事業実施を発表。学びの場事業プロジェクトリーダーの小林沙衣加さん(釧路公立大3年)は「中学生には、感性が豊かなうちに『自分はこの地域で何ができるのか』を考えてもらえたら」。また、同市の浅見仁総合政策部長は「未来の釧路の担い

レイアウト・門屋 安成

手となる中高生には、早い段階から長期的に取り組み、課題解決を通して釧路に愛着を持ってもらいたい」と話している。

SCANバトルは10月、11月に行われる予定。参加者の募集は9月以降。